

# 公務災害防止事業の推進

## ▶ 消防団員安全管理セミナーを実施して ◀

秋田県消防協会<sup>かつの</sup>鹿角支部

### 1. はじめに

秋田県消防協会鹿角支部は、東北三県（青森・秋田・岩手）のほぼ中央、秋田県の北東部、奥羽山脈を形成する鹿角盆地に位置し、南は八幡平、北は十和田湖の国立公園を控え、これに連なる緑の山々と清れつな河川に恵まれ、その自然の豊かさは「青垣山をめぐらす鹿角」の言葉で象徴されています。

総面積は909.22平方キロメートルで、秋田県の総面積（11637.54平方キロメートル）の約7.8%にあたる広さをもっています。そして、鹿角盆地の中央部を貫流する米代川を本流として、小坂川、大湯川、熊沢川などの河川が流れ河岸や台地に花輪、毛馬内などの市街地が開け、田園や畑地には大小の集落が点在しており、その周りは広大な山地で平坦地の少ない地勢となっています。

国立公園十和田八幡平を擁し、圏内を東北縦貫自動車道が通り、「鹿角八幡平」、「十和田」、「小坂」の三つのインターチェンジにより、青森、八戸、弘前、盛岡などの各都市と1時間経済圏となります。また、秋田自動車道と東北縦貫自動車道に接続するため日本海沿岸東北自動車道に小坂ジャンクションが建設されました。東北新幹線、秋田空港と相まって首都圏との所要時間が大幅に短縮されたことから、自然をはじめとする豊富な資源を生かし、県内はもとより、北東北でも有数の観光地として21世紀での産業、観光面の発展が期待されています。

### 2. 鹿角支部の概要について

当支部は、消防思想を普及し消防施設の改善充実と消防活動の強化及び会員の福利厚生を図り、もって社会の災危を防止し、人類共同の福祉増進に寄与することを目的に鹿角市消防団と小坂町消防団、鹿角広域行政組合消防本部から構成されております。平成28年4月1日現在、鹿角市消防団は全17分団で団員数は854名、小坂町消防団は全5分団で団員数は150名となっており、年間事業として火災啓発活動、防火パレード、訓練大会及び研修会の開催等を展開しています。

鹿角市消防団、小坂町消防団ともに消防団員の高齢化や新入団員の確保が喫緊の課題となっています。

### 3. 安全管理セミナー開催の経緯

当支部では、年間事業として様々な研修会を開催しておりましたが、これまでの研修会は事務局である消防本部が研修テーマを決めて開催していました。平成27年度の研修会では、消防団員が必要と感じる研修会を開催するため、団員へのアンケート調査を行ったところ「安全管理に関する講習会」の受講を希望する回答が最も多いことから、安全管理セミナーを開催する運びとなりました。

### 4. 安全管理セミナーを実施して

平成28年3月6日（日）、鹿角市山村開発センターにおいて、消防基金のS-KYT指導員の加藤豊明先生をお招きして安全管理セミナーを

開催し、団員78名が参加しました。

支部長あいさつ、講師紹介に続いて始まったセミナーでは、公務災害の発生状況や、その傾向と原因の説明があり、「消防団員を守ることは、わが町を守ること」と説いておられました。事故の予防策・教育訓練のあり方また東日本大震災での活動状況等の事例を踏まえ、「事故が起きる前に、事象から教訓を学ぶことが大事」「少しのことでも情報を共有し、ヒヤリハットを無くしていくべき」「危険情報は第一線の皆さんが知っている。全員参加の消防団の風土をつくってほしい」と呼びかけていただきました。

また、公務災害を防止するために不可欠な、消防団危険予知訓練（S-KYT）にも触れていただき、それらの内容にも真剣に聞き入っておりました。セミナーの最後には参加者で積極的に指差し唱和が行われ、たいへん有意義な分りやすいご講義をしていただきました。

出席した団員たちは、真剣な表情で耳を傾け、団活動での安全対策について意識を高めた様子であり、終了後のアンケートでは、「安全管理の重要性、安全管理者としての心構えを見直す

機会になった」、「健康管理がいかに大切か、事故が発生する前の危険予知の大切さを再認識した」などの声があり、今後の消防団活動に生かしていただきたいと思います。

## 5. 今後の取組

公務災害はあってはならないことではありますが、当支部でも、年間数件の公務災害が発生しております。参加者には、今回の研修で得た知識を各分団に持ち帰って未受講の団員へ周知していただき、「公務災害ゼロ」を目指していきたいと考えております。また、発生した公務災害やヒヤリハット事例を支部全体で共有し、再発防止の徹底に取り組んでまいりたいと考えています。

最後に、今回のセミナー開催にあたり、S-KYT指導員の加藤豊明先生、助成をいただきました消防団員等公務災害補償等共済基金に厚くお礼を申し上げますとともに、今後も安全管理セミナーのほか、S-KYT研修や消防団員健康づくりセミナーなど、計画的に公務災害防止事業を進めてまいりたいと思いますので、引き続き、ご支援いただきますようお願い申し上げます。

